

第2回 多摩市市制施行50周年記念誌編集委員会 要点記録

- 1 日時：平成30年1月12日（金）午前10時から午前11時40分
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員：浜田委員長、保坂副委員長、長倉委員、三輪委員、川村委員、松井委員
- 4 議題：市制施行50周年記念誌の構成について

1 開会

委員長 第2回目の多摩市市制施行50周年記念誌編集委員会を開催する。

2 議題

委員長 本日の配布資料について、事務局より確認をお願いしたい。

事務局より、配布資料の確認を行った。

それでは、資料の内容について、多摩市文化振興財団より説明をお願いしたい。

財 団 **資料1及び参考資料1に基づき、財団より説明を行った。**

資料1の内容構成案については、大きく7つの時代等で括り章を構成した。

章内は、各時代について記載するとともに、その時代にどんな出来事があったのかを項目出しをした。

出来事については、主なものを記載しているもので、追加したい項目や表現等の修正があればご意見いただきたい。

委員長 説明の際に、財団が刊行した資料も一緒に提示いただいたので、大変わかりやすく、また、多摩市には多くの資料があることが分かり参考となった。

これらの資料も、記念誌編集の際に活用出来たら良いと思う。

事務局から、財団の説明に追加等があればお願いしたい。

事務局 第1回委員会で参考として紹介した国分寺市の市制施行50周年記念誌が、先日たましん地域文化財団が発行している「多摩のあゆみ」で紹介された。

国分寺市の記念誌は、国分寺市の歴史を概要説明しており、市民の目線に立ってまとめられている。多摩市の記念誌についても、歴史については概要を載せるということでは、国分寺市の記念誌が基本になると思う。

植物については、新たに発見された「タマノホシザクラ」や旧石器時代の人類についての訂正等、多摩市史刊行から変更のある部分をメインとして概要を記載するのが良いと思う。

委員長 今回の記念誌は、基本的には、通史的な記載になるが、市制施行からの50年の歩みがメインとなるため、ボリューム的には、この50年の出来事が半分以上を占める構成となると思う。

財 団 構成については、時代ごとにまとめたが、第5章「人々くらし」や第6章「文化と芸術」は、歴史ではなくて分野でまとめているが、歴史的な内容もあるためどのような構成が良いか意見をいただきたい。

委 員 第5章、第6章については、分野でまとめるよりは、各時代の中で紹介した方が良いのではないかと。各時代の紹介でも必要となってくる項目だと思う。そうした際に、再度第5章、第6章で記載する等重複が無いようにすべきだと思う。

また、第7章は、「多摩市の未来」となっているが、その中に多摩ニュータウンの項目も入っている。多摩市の50年には欠かせない多摩ニュータウンについては、章として大きく項目をとっているため、未来についても多摩ニュータウンの項目の中に織り込み、多摩ニュータウンについては、歴史、現在、未来をまとめて記載し、章として一度区切った方が良いと思う。第7章については、多摩市全体としての未来を描いた方がよいと思う。

委員 多摩市全体としての歴史に、多摩ニュータウンをどのように表現するのが重要になると思う。確かに多摩ニュータウンの開発とともに成長を遂げてきた市であり、大きな影響を与えたが、多摩ニュータウンが多摩市のすべてではなく、既存地区にも変化や成長があった。それを含めて多摩市としての50年になると思う。

「多摩ニュータウン」の記念誌にならないよう気を付けなければいけない。

委員 多摩市と言えば多摩ニュータウンであるが、それだけではないと思う。

多摩ニュータウン開発による影響だけでなく、開発以前の多摩地域の歴史や日本全体の文化や経済成長に影響された部分もあると思う。そういう多摩市全体の変化が描ければ良いと思う。

また、先ほども意見があったが、多摩市に大きな影響を与えた多摩ニュータウンとしての未来も必要だが、多摩市としての未来についても別に描いた方が良いと思う。

委員長 多摩ニュータウンの開発の影響により、多摩市全体に文化や暮らしの変化があったと思う。先ほど意見があったが、第5章「人々の暮らし」や第6章「芸術と文化」もそうであるが、多摩ニュータウンの未来についても、記念誌の構成によって、描き方が変わってくると思うので、いろいろな意見をいただきたい。

委員 多摩ニュータウンの開発から再生計画まで、多摩ニュータウンが影響を与えた出来事を含めて、多摩ニュータウンに関わることをまとめるのが良いと思う。そして、ページにも限りがあることから、記事が重複しないように工夫しないといけないと思う。

構成については、国分寺市の記念誌が見やすかったため、通史的でかつ、多くの画や資料を掲載したものが良いと思う。

副委員長 50年の歩みを描くには、歴史の流れが必要である。そして多摩市に劇的な変化をもたらしたのが、やはり多摩ニュータウン開発である。

多摩ニュータウン開発を含めた多摩市のこれまでを歴史の流れで描くと、第5章「人々の暮らし」と第6章「文化と芸術」の構成の仕方が難しいが、人々に注目した視点から構成すると良いかもしれない。

昔からあった伝統的な文化があり、そこに移住してきて作られた新しい文化がある。伝統的な文化と新しい文化が交流し、現在に至る。そして第7章の「未来」につながっていくのだと思う。

委員長 伝統的な文化と新しい文化が融合して今の多摩市がある。

同時に融合されず残った文化もあれば、新しくできた文化が生きているものもある。そこを分けて描いても良いかもしれない。第6章「文化と芸術」は多摩ニュータウンを題材とした作品が多いため、多摩ニュータウンの現在としてまとめても良

いかかもしれない。

また、実際の資料を見てからどのような構成にするか決めることもできるのではないか。

財 団

第3章「多摩市の歴史（多摩ニュータウン開発前まで）」の（5）現代の記事の年数が短い為、記載内容がすごく少ない。

多摩ニュータウン開発については、昭和35年頃から開発の計画があったり、（5）現代に記載の出来事は、第4章「多摩市の歴史（多摩ニュータウン開発から）」にもかかってくることから、分け方が難しい。

多摩ニュータウン開発でも、開発案から開発、入居段階で変化があることから、細かく分けても良いかもしれない。

副委員長

戦後から高度経済成長期の間はどうであったか。多摩村の時代も何か出来事があるのでないか。これを多摩ニュータウン開発の中に入れてはどうか。

年数が短くても、（5）現代をそのまま残しても良いと思う。

委員長

第5章「人々の暮らし」は、既存の文化についての項目が多いため、第3章「多摩市の歴史」の（5）現代に取り込んでも良いのではないか。

副委員長

多摩ニュータウン開発によって、第5章で描かれている文化が成り立たなくなった。もちろん日本全体が戦後の経済成長によって変わったが、多摩市は劇的に変わったことを考えると、第3章の多摩市の歴史に取り込むのが自然かもしれない。

委員

確かに、第5章「人々の暮らし」に既存の文化をまとめるのは違和感がある。多摩ニュータウン開発を描く中で、第5章を分野で分けてしまうのは、歴史の流れが切れてしまっているように感じる。

また、多摩ニュータウンの開発とともに作られてきた、現在の文化についてもすべてをまとめて良いのか考える必要がある。

例えば、サンリオピューロランドはオープンしてから30年ほどが経つ。また、「平成狸合戦ぽんぽこ」と最近話題になった映画やドラマでも年代や文化の違いもある。その辺の整理も必要である。

ボリューム的にならざるを得ないが、この分野で1章設けることも考えられる。

副委員長

記念誌の章立てが通史的なので、第7章「多摩市の未来」については、「多摩市の現在から未来へ」にしてはどうか。構成案には、現在という章名が無いので、入れた方が良いと思う。

現在のことを描いてから未来につながる表現にしてはどうか。

委員

文化については、既存と多摩ニュータウンで分けるよりは、芸術の分野として昔からの伝統と新しいもの、融合したものに分けても良いのではないか。

委員長

章ごとのボリュームは市制施行からの内容がメインになるため構成比率がアンバランスではあるが、多摩ニュータウン開発前までの歴史、ニュータウン開発、開発と人々の生活の変化等、大きな括りで分けるとバランスもとれると思う。

また、文化と芸術に関して、昔の文化で今はもうないものについては、第3章「多摩市の歴史」の（5）現代に入れ、現在まで続いているものは「現在」に入れても良いのではないか。それから、「現在から未来へ」については1つ章として設けて

も良いと思う。

冒頭の「写真で見る多摩 いま・むかし」は、冒頭にあった方が良いか。それとも最後に載せるかご意見を頂きたい。

委員

冒頭にある方が、インパクトがあるし、まずは写真での多摩市の変化を見せて、章で説明する方が分かりやすいと思う。

副委員長

記念誌の全体としては、通史的にし、各テーマを設ける。

各テーマの中で、グラフや写真等で見せていくのが良いと思う。また、通史の流れの中にトピックを入れて、時には、歴史や文化が実際に見て回れるようにマップ表示しても良いと思う。多摩のさまざまな橋から富士山が見られる富士見橋などは魅力的なので、紹介すべきだと思う。

面白い要素を盛り込むことで、市民が興味を持ってくれると思うし、それが記念誌を作成するうえで、重要なことであると思う。

委員長

第1章や第7章はプロローグやエピローグとする等、表現についても今後議論して決めていけたらと思う。

3 その他

事務局

次回、第3回多摩市市制施行50周年記念誌編集委員会については、当初今年度の3月を予定していたが、市や財団が所有する写真の確認やリストの作成に時間がかかるため、6月に開催したい。

次回委員会では、写真や資料等の確認をしていただき、記念誌の構成やテーマを決定するとともに、執筆者についても議論していただく予定である。

7 閉会